

北海道駒ヶ岳

○地磁気全磁力

北海道大学では、プロトン磁力計により山頂火口原を含む5箇所で全磁力連続観測を行っている（図1）。2006年以降の変化（K04を基準とした単純差）を図2に示す。火山活動に伴う顕著な変化は認められない。山頂火口原内のK05では僅かに減少の傾向があるものの顕著ではない。なお、2008年7月23日朝の雷雨に伴い、K03で約30nT、K05で約3nTのステップ状の変化が発生した（図2中の①）。激しい雨による土砂の移動・センサ位置のずれ、落雷による岩石の帯磁などの要因があり得るが、原因は特定できていない。

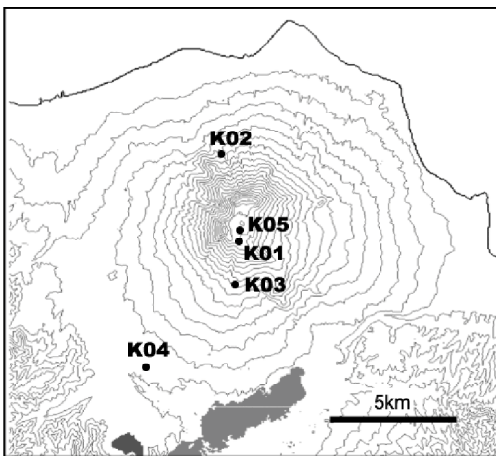


図1 駒ヶ岳全磁力連続観測点の配置

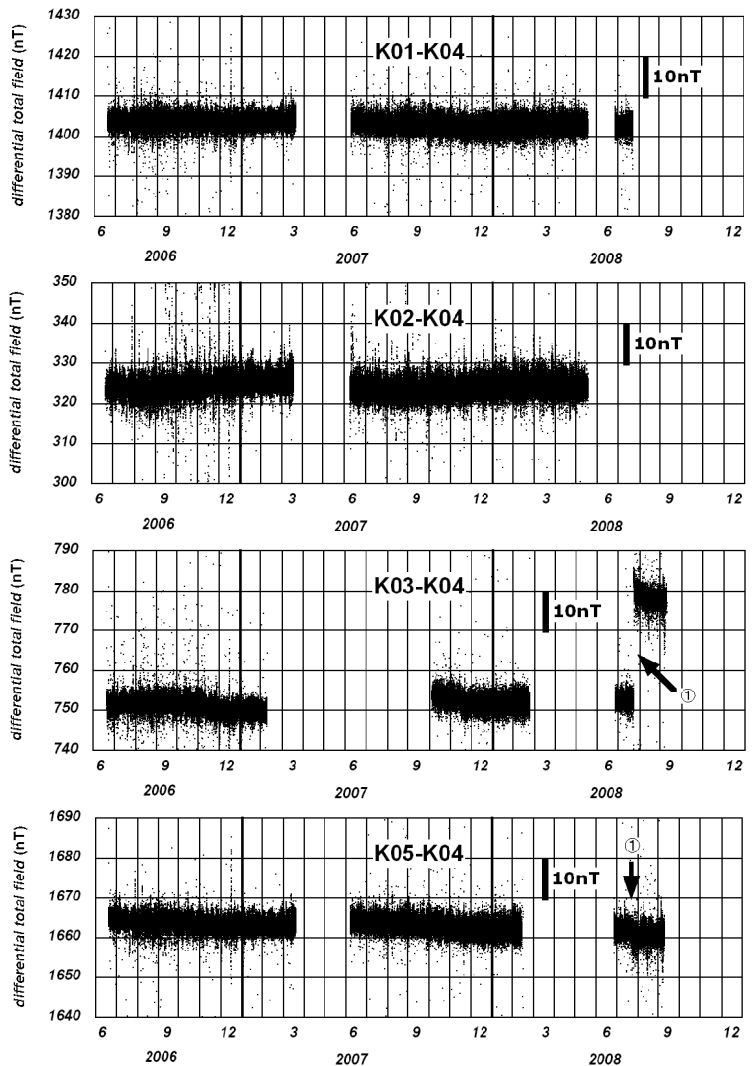


図2 2006年6月～2008年9月の全磁力変化。K04を基準とした5分値単純差でプロット。

(橋本・鈴木・茂木)